# 土壌中におけるジノテフランの挙動と後作物への移行解明

【研究概要】

ジノテフランは広い殺虫スペクトラムと浸透移行性を持つため、農作物生産における基幹防除剤となっている。その一方で、安定性が高く、土壌残留性があることに加え、水に溶けやすい性質のため、後作物への移行および残留が懸念されている。そこで、栽培環境と土壌中の残留濃度との関係や後作物への移行程度を解明し、土壌残留を考慮した適正使用を推進することを目的に試験を実施した。

コマツナを４月から10月までに５作連作し、ジノテフラン1.0%粒剤および20%水溶剤を１作ごとに登録最大量使用した場合、土壌残留濃度は粒剤施用直後に上昇するが、その後減衰する。この５作まででは、収穫時の土壌抽出濃度への温度影響は判然としなかった。